レッスン：PYR36

テーマ：Lifeを理解する

PYR36 KE06 No.2 26/10/05

私の姉妹・兄弟たち、

スピリット、光、火の子供達よ。私たちは常に主、絶対、主の聖性のなかにいます。

　前回のレッスンのなかで、皆さんに質問をしました。そしてその質問とは「創造界の全ての動き・活動、なぜ絶対存在は諸宇宙、コスモス、そしてそのコスモスの中におけるLifeの現れを創造するのでしょうか？」というものです。絶対存在がそれ全てを行う必要があるのでしょうか？Lifeにはいかなるニーズ、必要性もないと見なしていますが、それなのになぜスピリット・セルフモナドは自己実現したものになる必要があるのでしょうか？なぜでしょう？神にはこれら全ての“面倒なこと”を行う必要があるのでしょか？なぜでしょうか？そして今私たちはその答えを期待しています。創造と現れを通じてそれらを経る理由を皆さんはどのように理解しますか？

参加者A：この次元に降りてくる理由は経験をするため、それによって自分自身のやり方でよりよい奉仕ができるようになるため、創造界に奉仕してよりよい場所を生み出すために本能的に考えることができるようにためだと思います。

参加者B：それは動き、活動としての神の一部だと思います。さもないと生命のない状態で固定してしまうでしょう。それは助けるためではありません、なぜなら誰も降りてこなければ、誰も助けを必要とする人もいないからです。

参加者C：モナドは神の一部です。彼等は神です。彼等の内側には全てがあります。しかし彼等はそれを体験していません。

K:彼等は体験を必要としていますか？

Q:いいえ。

K：それならなぜですか？もし神が体験、経験を必要としないなら、なぜ創造界、そして創造界における現れを経るというプロセスがあるのでしょうか？

参加者A：何かより良いもののためだと思います。なぜなら、神は愛であると私たちは言います。ですからどこかにおもむき、改善される必要があるのでは。

K：あなたの答えによれば、神は改良されより良いものになる必要がある、と言っているように見えますね。Lifeの主な特質は何でしょう？創造の諸世界における現れとしてのLife、私たちの内側にあるLifeのスパークであっても。最小のものから最大のものまでLifeの主な特質は何でしょうか？Lifeの主な特質は動き・振動・波動です。そしてその結果として私たちには動き・振動・波動があるのです。

　ですから、その結果として自動的に創造界があるのです。そして何から創造されるのでしょうか？何であれ絶対存在内にあるものからです。なぜなら、覚えているかもしれませんが、以前のレッスンで創造界はアウタルキー（＊自己充足）の中にある、と言いました。ですから、継続的なディバインの黙想の結果として、その主な特質のゆえに創造界、ディバインの黙想の動きがあります。それは動きを生み出します、そして自動的に現れるもの、それはそのアウタルキーの中なら、Lifeの中から、その本質の中からであり、それはLifeなのです。それゆえに、過去のレッスンで、創造界と現れはディバインの黙想の結果であり、何であれその活動、動きの内にあるものは微片であり、それはそれ自身のモナドセルフから生じる、と言いました。結局、Lifeによって活性化され、存在し､実在する現在のパーソナリティーでさえ、それは自動的になにを行うでしょうか？現在のパーソナリティーとして私たちは何をしますか？私たちは思考、考え、二元性の結果としてエレメンタル、無数のエレメンタルを創造します。

Page2

　しかしLifeは絶えず黙想しており、それが主な特質です。そしてこのディバインの黙想の結果として、創造界があります。そして創造界では何が表現され、現れるのでしょうか？そのSelf

からの何かです。ディバインの黙想には特定の仕事があるでしょうか？勿論、ある仕事があります。さもないと､言ってみれば＜何か＞の恩恵、利得にはなりません。

　それはアウタルキーの状態にある絶対存在のための利得でしょうか？答えはノーであり、動き・活動そのもののためです。なぜなら結局スピリット・セルフ（＊スピリットであるセルフ）が自己実現に到達すると、そのスピリット・セルフはその後この動きに奉仕・貢献するようになるからです。なぜなら、それはDominion（ドミニオン）、惑星ロゴスまたは太陽ロゴス、あるいは銀河系のロゴス、その他をスパークするからです。そしてそれらのロゴスは進化成長の途上にある人間を助けるからです。これが自己実現の唯一の理由であり、絶対存在が何かを得るためでもなく、さらにはSpirit Selfが自己実現したSpirit Selfになるためでもありません。結局、Spirit Self Monadは人間のイデアを通じてそれ自身の微細な部分をスパークとして放射しましたが。それ自身はアウタルキーのなかに留まり、絶対存在のワンネスの「部分」なのです。

　Lifeは決して制限ある現れのなかに入ることはありません。私たちの内側にあるスパーク、人間の身体内にあるスパーク、現在のパーソナリティーを活性化するスパークでさえも制限ある現れの中に入ることはありません。それゆえに影としての現在のパーソナリティーがあるのです。なぜなら、Lifeが制限ある現れのなかに入ることは不可能だからです。それゆえ以前のレッスンで、創造界にある全ての法則は私たちのなかにある、と述べたのです。それらはLifeの各スパークのなかにあるのです。原因・結果の法則、ディバインの慈悲の法則、その他。それらは私たちの内側にあるのです。そして現在のパーソナリティーとしてLifeそれ自体から現すものは、外側に見いだすことはできません。それらは内側から来るのです。ですから、これが答えです。

　創造界のなかに創造と現れがないということは不可能です。そして何であれ創造されたもの、それはLifeそれ自体から来るものであり、それがいわゆるマインドです。ですからマインドはディバインであると述べたのです。それは聖霊ではなくディバインです。それは神ではなく、神からのものです。そしてマインドを通じて、現れがあるのです。

Q：理解できないことがあります。黙想があり、黙想が動き・活動を生み出します；黙想は動き・活動を意味します；動きは他を助けるための自己実現を生み出します。そしてどうなるのですか？

K：それは動き・活動それ自体のための継続的な終わりなきプロセスです。

Q：その目的は何ですか？

K：この動き・活動を助けることが目的です。それは果てしなき、終わりのない動きです。始めも終わりもありません；それがLifeです。新たな現れが常にあり、新しい銀河が常に一から創造されています。誰が（＊そこから）恩恵を受けるのですか？神でも絶対存在でもありません。動き・活動それ自体が得るのです。継続的な終わりのない動き・活動があります。

　例えば、あなたは二元性のスイッチを切ることができると思いますか？不可能です。思考、考えは二元性の結果です。しかし勿論二元性もまたLifeがあるゆえにあるのです。もし私たちの内側からLifeを引き戻してしまえば、肉体は二元性を現すことはしなくなり、崩壊します。

　ですから、何であれ私たちが創造するもの、なぜなら私たちが常に無数のエレメンタルを創造しており、それらは現れであり、その現れは私たちによって活性化されエネルギーを与えられます。私たちはエレメンタルを築き、それを活性化します…ほとんど進化成長している間に。

　私たちはそれらのエレメンタルをどのように定義しましたか？それを願望-想念型のエレメンタルとして定義しました。私たちはLifeの主な特質である動き・振動・波動の結果として、無数のそれを創造します。なぜなら、私たちはLifeであり、私たちはLifeによって活性化され、Lifeが私たちの内側にあるからです。

　絶対存在が諸宇宙を築いているように、私たちはマインドの波動を使用してそれらのエレメンタルを築きます。ですから現れの最も低い波動ですら、絶対存在が創造しているように創造するのです。そしてその創造界の中で、絶対存在はそれ自身を現しています。なぜならそれ自身のなかでそれ自身を現わしているのは絶対存在だからです。絶対の外側において、そのアウタルキーの内側にないものによって現わすことのできるものは何もありません。なぜなら、すべてはアウタルキーの内側にあるからです。Lifeには私たちが想像できるようないかなる形、境界もありません。境界というものはありません。私たちの内側にあるLifeのスパークでさえいかなる境界、制限というものはありません。

Page3

　私たちの内側にあるLifeのスパークには天人の体があると言う時、それは実際には法則です。しかし、Lifeのスパークには可能性というものがあり、それは非常に小さくてもコスモス、全ての諸宇宙を包みこむ能力があるのです；そして全ての諸宇宙はLifeそれ自体と比較すると、ほんのちっぽけなものなのです。

　もしLifeの微細なスパークをアウタルキーと多重性のなかにある絶対存在と比較するとしたら、アウタルキーとワンネスのなかにある絶対存在は全体を現しているので、Lifeの微細なスパークより大きいと考えますか？答えはノーです。そのように比べることはできません。重要なのはその質であり、質は最小のものも最大のものもまったく同じです。そして最小と最大と言う時、それは単なる話す都合上にすぎず、Lifeには最小も最大もありません。Lifeはただ**ある**のです。

Q：あなたは拡大している宇宙がある、と言いましたが、それではLifeはつねに拡大・膨張していて、それがまた目的でもあるのでしょうか；それは大きな拡大です。

K：それは絶えざる動き、活動です。仕事が達成されると、それらは消え、そして物質レベルで新しいものが創造されます。なぜなら、その仕事が達成されるのはこのレベル（＊物質レベル？）の波動だからです。

Q：他の全ての惑星と銀河系にも現在のパーソナリティーがいて、彼等は私たちと同じ形をしているのですか？

K：もちろんです。彼等は私たちの惑星地球の最初からと同じようにスタートして実在するのです。フォーム（体型）も同じです。細かい所は多少違うかもしれませんが…例えば頭が少し大きい、あるいは小さい、耳が大きい、鼻が大きい等。しかし、二元性も同じようにあります。

　私が二元性というとき、思考の動きを意味し、現れとしての二元性ではありません。しかしまたフォームの結果としての二元性もあります…２つの目、２つの肺などです。全てが２つです。私たちが例えば２つの器官がなくても、一つの器官が分割し、そこには分割の線があります。

　創造界における全ては手段として使用されるでしょう、その結果Lifeがその本質を完全に表現するポイントに到達できるように。そのためにこのフォームも必要となるのです。それについては前に説明しました。

　創造の元型、それは骨組みであり、それはフォーム、人間のイデアフォームを提供します。ひとたび完全に活性化されれば、人間のフォームの元型としてのイデアフォームがあります。Lifeによってそのように達成されます…そして現在のパーソナリティーはLifeの本質を完全に現わすことはありません。なぜなら、それはLifeそれ自体ではなく、Lifeの影だからです。

Q：なぜあなたは動き・振動・波動というように３つを掲げますが、なぜ簡単に動きと言わないのですか？

K：それら３つはすべて動きです。動きはいろいろな方向に行くかもしれませんが、しかし同時にそれは一つの方向においてです。それについて考えてみてください。私が何かに向かって動きます、あるいはその何かが私に向かって動きます；あなたはある方向を特定します。振動と波動、それは同時に２つの方向に向かうかもしれません。しかし同時に周囲に向かうか、または周囲から来る、あらゆる方向に向かうかもしれません。今のは良い質問です。このような質問を受けたのは初めてです。

Q：私にとってそれは水のようです。水に何かを投げると、あらゆる方向に円が広がっていきます。

K：双方向のアンテナはその動きが円になり、その周囲を円のようにカバーします。しかしまた特定の方向だけに向けられたアンテナもあり、その方向にのみ伝えます。限られています。

Q：ですからある意味で無知のなかにいる間は私たちは一つの方向だけに動き、そして私たちはこの振動のように、それとは異なるタイプのアンテナになりたいと願います。私たちの本質を変えるために。一つの方向だけに行くのではなく、全ての方向に動くことを欲するのです。

Page4

K：勿論、私たちは自分達の意識をあらゆる方向に広げるべきです。ピラミッドに関するレッスンのなかで私たちは何を述べたでしょうか？四面ピラミッド、三面ピラミッド、そして五面ピラミッドをマスターするとき、どのようなピラミッドが形成されるでしょうか？円錐が形成され、それは意識の拡大を意味します。そして勿論、大きな四面ピラミッドをマスターしたら、つまり現在のパーソナリティーが自己実現に到達した時、自動的にそれをマスターします。フォームに関して意識の制限はありません。それゆえにLifeは諸宇宙を抱くことができ、そして諸宇宙はLifeの微細なスパークの中にあるのです。

Q：私のなかではまだ混乱しています。絶対存在にはニーズ、必要性がない、Lifeにはニーズがないと言います。しかしニーズのないモナドセルフがロゴスの下降を通じてスパークとして下降してきました。しかし、経験をする、様々なサイクルを体験し完了する、個別性というポイントに到達して他人とは違う“私は私である”と言うことができるように…というニーズがそこにはあります。

Ｋ：そうです、しかしそれは起きていることです。これは他の誰でもない進化・成長のプロセスのなかにいる人間の無知にとって助けになります。これはディバインの黙想の活動であり、助けられるのはその活動それ自体です。それは絶えざる活動です。

　この惑星が非物質化された時、人類に奉仕してきたロゴスたち、例えば惑星ロゴスにとって何が起こりますか？彼等はすでにアウタルキーの中におり、決してアウタルキーを去ったことはありません。そして他のスピリット・セルフ達が奉仕するでしょう。これは継続的なのです。

　絶対存在は巨人であり、この巨人の中に創造界とその活動があり、その体のなかに私たちがいるのです。

　私たちがしていることは実際、エンライトメントに向かっての個人的な進歩を加速しようとしているのです。環の始まりと終わりはわかっており、誰もがそこを歩む必要があります。しかし、その終点までどのようにして辿り着くかは個人的な動きです。一つの惑星の体験ですら他の惑星の体験とは異なります、個のユニークさがあります。その個がパーソナリティーであろうと、それが惑星であろうと、あるいは銀河系であろうと、あるいは超銀河であろうと。

Ｑ：おそらく私たちのマインドはあまりにも人間的です。それはスタンダードな道であり、私たちが何をしてもそこにあります。例え私たちが何かをしようと努力しなくてもそれは行われるでしょう。

Ｋ：違います。それは行われないでしょう。与えられた可能性としての能力によってそれが行われるかは私たち次第です。なぜなら、レッスンで説明したように、可能性としてのサイクルがあるにしても、私たちが行っているのは蓋然的可能性としての様々なサイクルです。なぜなら私たちは何であれサイクルが私たちに提供しているものを利用していないからです。そしてそれがいわゆる個人性というものを生み出します。私たち各人はそれぞれ異なった経験をしているからです。

一つの円が終わると次の円が生じます、経験しなければならないことが完了するまで。一つの惑星上の全ての人間が全体として自己実現に到達する時が来るでしょう。そして、絶対存在のワンネスがその多様性のままに一つであるのとまったく同じように、全員が一つになって働くことでしょう。

　多様性が様々なセルフを現すと思いますか；絶対存在の多様性の中の一つのモナドが、それ自身を多様性のなかで他のモナドセルフとは異なった何かとしてそれ自身を現すと思いますか？違います、それは一つなのです。それは一つの“声”です。同じように、自己実現した惑星は他の銀河系、他の太陽系においてそこにおける同胞の人類を助けるためにそれ自身を表現することでしょう。

　彼等は自分の個人性、自分のモナドセルフを失うことなく、一つの声を有し、まったく同じ黙想をし、まったく同じブレーシス（＊神の意志）を持つのです。しかし、あなたはモナドセルフとして、何であれ自己実現した惑星のワンネスのブレーシスのために奉仕するのです。

Q：もう一つ質問があります。物理の法則の一つにエネルギーを生み出すというものがあります。

K：エネルギーとは集中したパワーです。パワーとは何で、パワーの中には何があって、エネルギーとは何でしょうか。それは動き、活動です。何であれ存在、実在するもののなかにはエネルギーがあります。そしてエネルギー、動きがあるなら、そこにはLifeがあることを意味します。Lifeは全ての中にある、とレッスンのなかで言いました。Lifeのサポートなしには何も実在できません。もし神を体と考えるなら、私たちはエネルギーで満ちたその体のなかにいます。私たちはエネルギーの海の中を泳いでいるのです。しかし､神はその動きには依存せず、またいかなるニーズ、必要性もありません。何かを必要としているのは私たちです。今私が私たちと言いましたが、それは現在のパーソナリティーのことで、私たちのなかのスパークのことではありません。そして現在のパーソナリティーが自己実現に到達すると、現在のパーソナリティーとしてさえ、つまり現在のパーソナリティーの完全に再形成された諸体を有する人間として、その人には実際いかなるニーズ、必要性を持たないのです。

Page5

 Q ：人々がモルフォジェネティック場(morphogenetic field)について話すのを聞きます。科学者であるRupert Sheldrake　がこの理論を組み立てました。そして彼は次のような実験と観察と共に組み立てたのです。つまり、もし一羽の鳥が新しいテクニックまたは習慣を学ぶと、自動的に別の地域にいる別の鳥も自動的に同じことをする、というものです。これはエレメンタルによるものですか？

K：なぜならそれらの鳥はある特定のグループに属しているからです。そしてそのグループの背後にはアークエンジェルまたはエンジェルが働いていて、その鳥のグループつまりその鳥が属する種にエネルギーを与えています。そして自動的に“経験”はその鳥と同種の鳥たちに伝達されます。それが実際に起きていることです。

　いいですか、かなり昔、何十年も前に科学者がある島で起きた偶然によってそれを認識しました。猿たちがバナナを食べていて、それを泥のなかに落としてしまいました。或る日一匹の猿がバナナを食べている時に水の入っている所に落としてしまったのですが、バナナは汚れずにきれいでした。その時以来、猿たちは汚れたバナナを洗い始めたのです。すると遠く離れた別の島にいる猿たちも同じことを始めました。科学者達が観察している時にそのような偶然が生じたのです。

Q：人々はそれをモルフォジェネティック・フィールドと呼んでいます。鳥にそれが生じましたが、科学者の間でも起きました。一人の科学者があることをあるアイディアを考えつくと、別の国にいる科学者も同じことがひらめいたのです。なぜこのようなことが起きるのか興味があります；それはアークエンジェルによるものですか？

K：それはアークエンジェルの意識を通じて起きたのです。それは本能を通じたものです、なぜなら動物には意識がないからです。しかし、科学者の場合は別です。その科学者は私たちがその中を泳いでいる汎宇宙的潜在意識からそれをピックアップしたのです。それは記憶であり、エレメンタルではありません；それはLifeによって私たちに与えられた特質です。私たちはそのような本の中で書いている動きなのです。私たちはそのような本のなかで自分のページを書いています。汎宇宙的記憶のなかには永遠の時間のなかで起きたこと全てが記録されています。一枚の木の葉の動きでさえも。

Q：例えば、ジュール・ベルヌが潜水艦とヘリコプターについて、それらが発明される前に書きました

K：それは潜在意識から来たのです。どの潜在意識でしょうか？レッスンで言いましたね…何であれ私たちの潜在意識の中にあるものは、他の全ての人々の潜在意識の中にもあると。しかし、同時に何であれ最大の中にあるものは最小のなかにもあります。それらのサイエンスフィクションの映画でさえ、彼等はどこからそのようなアイディアをピックアップしたと思いますか？なぜならそれらはアカシックレコードのなかに記録されているからです。他の惑星で数え切れないほど無数に起きたかもしれない出来事をピックアップしたのです、たぶん細かい点は違っているかもしれませんが。しかし、その背後に現実に何もない、なかったことをあなたが想像することはできません。何であれあなたが考えること、想像することは、その背後にリアリティー、現実があるのです。テクニカルな手段で動くサイエンスフィクションの映画ですら、同じです。

Q：それではそれは他のいろいろな新しい惑星上で繰り返されるということですか？

K：繰り返し、そうです。しかし詳細は異なります。繰り返されるのです。それがLife、継続的動きです。しかしあなたが既に体験したことをあなたが再び体験することはありません。そしてまた2人の人間がまったく同じことを体験することもありません。同じ出来事のなかにいたかもしれませんが、あなたの体験はもう一人の人とは異なるでしょう。なぜなら、あなたが認識することに関係するからです。そしてそれがいわゆる個人性、個別性というものを創造します。

　ですから、Lifeは動き、振動、波動なのです。そしてその結果として、創造界があり、現れがあります。そして勿論LifeのなかにあるものはLifeです。ですからLifeから来るものは全てそれ自身のなかで表現されたLifeです。しかしまたマインドの様々な波動としての手段があり、Lifeが現すためにそれを使います。そしてその動きを支配する法則があります。その法則はLifeの現れのなかにあり、最小のなかにさえあります。そしてLifeは創造されたものではなく､Lifeはただ在るだけです。Lifeはアガピであり、Lifeは絶対真理であり、リアリティーです。

EREVNA PYR36 KE06 2/10.05